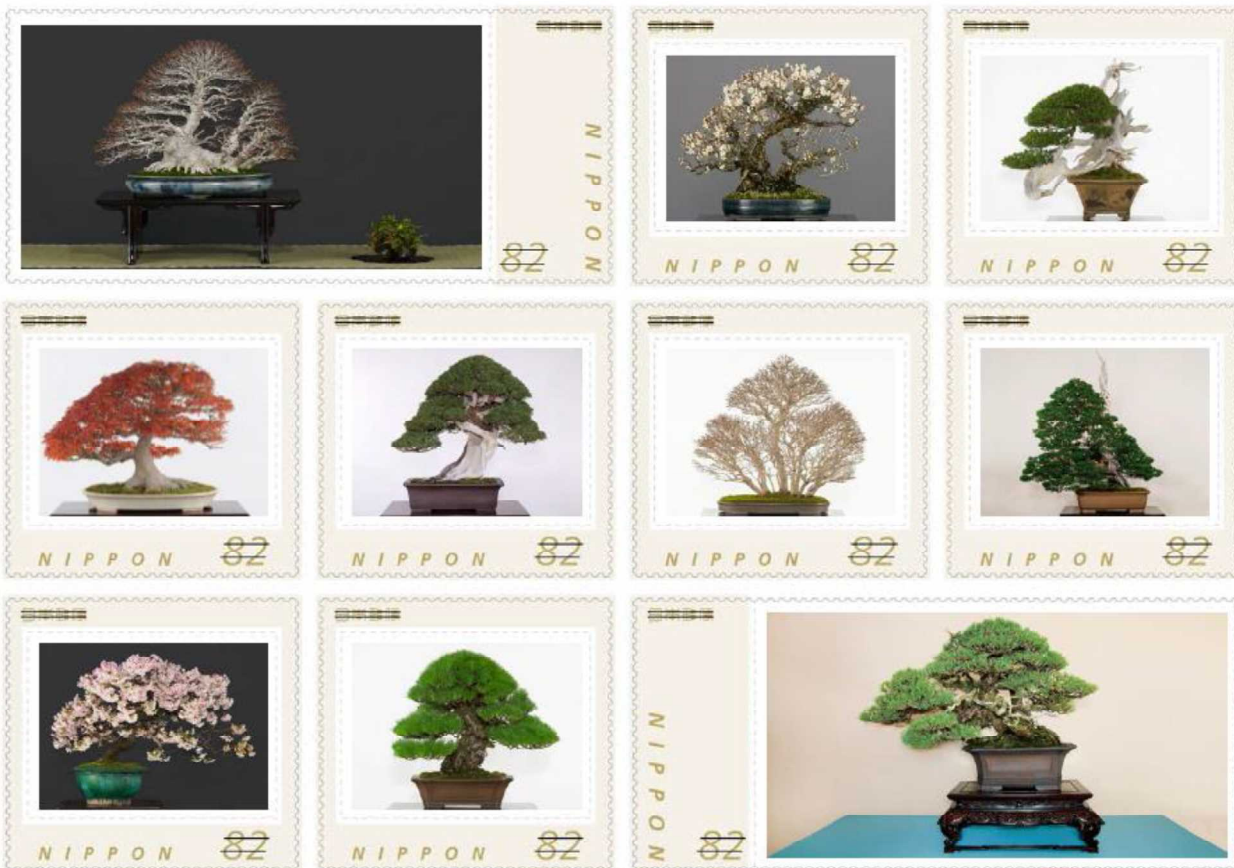


【切手デザイン】



第8回世界盆栽大会 in さいたま
The 8th WORLD BONSAI CONVENTION, SAITAMA CITY




- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。



【台紙デザイン】

(表面)



第8回 世界盆栽大会 in さいたま
The 8th WORLD BONSAI CONVENTION, SAITAMA CITY

第1回 日本/さいたま市(旧大宮市)
1st Japan/Omiya, Saitama City

第2回 アメリカ/オランダ
2nd America/Ontario

第3回 韓国/ソウル
3rd Korea/Seoul

第4回 ドイツ/ミュンヘン
4th Germany/Munich

第5回 アメリカ/ワシントンD.C.
5th America/Washington D.C.

第6回 フエルトリコ/サンファン
6th Puerto Rico/San Juan

第7回 中国/金壇
7th China/Jintan

2017年4月27日(木)~4月30日(日)
April 27(Thurs)-30(Sun), 2017

そして、ふたたび日本へ
8th Returning to Japan in 2017!

メイン会場 Main Places
さいたまスーパーアリーナ Saitama Super Arena
大宮ソニックシティ Omiya Sonic City
パレスホテル大宮 Palace Hotel Omiya

サブ会場 Sub Places
武蔵一宮氷川神社 Musashi Ichinomiya Hikawa-jinja Shrine
さいたま市大宮盆栽美術館 The Omiya Bonsai Art Museum, Saitama
大宮盆栽村 Omiya Bonsai Village

■主催: 第8回世界盆栽大会inさいたま実行委員会 (The 8th World Bonsai Convention, SAITAMA CITY Executive Committee)
【事務局】 一般社団法人日本盆栽協会 (Nippon Bonsai Association)
■共催: さいたま市 (Saitama City)

(裏面)



第8回 世界盆栽大会 in さいたま
The 8th WORLD BONSAI CONVENTION, SAITAMA CITY

真柏(しんぱく)・銘「飛龍」
太い幹が奔放に屈曲捻転を繰り返す幹の迫力が最大の見どころです。その迫力を強調するように、柱むし(ワンス)よく備えられています。幹の白く見える部分はずで白くおぼろげの芯の部分が凍ったもので舍利(シャリ)と呼ばれています。

ぶな・銘「原龍」
日本の広い範囲に自生する落葉樹。秋田県白神山地の天然林は世界遺産に登録されています。この樹は、若木の頃から既に幹が曲がり、縮輪にははれた枝の美しさが見事です。

野梅(やばい)
ウメには様々な品種がありますが、野梅はもっとも原種に近いものとされています。古色蒼然とした幹ですが、枝一面に濃密な花を咲かせ華やかさも感じさせます。

一位(いちい)
昔、この材から茶(しゃく)・東郷の時に右手に持つ縮長(しゆく)を作ったことから、百位の一位にちなんで、この名があると言われています。凛々とした幹の迫力は見る者を圧倒します。

もみじ(もみじ)
もみじには様々な品種がありますが、やや離れてしまった樹が特徴なのが獅子頭です。小球を作りたくいとされていましたが、この樹は樹皮のくずれは顕著らしく、紅葉も鮮やかです。

真柏(しんぱく)
真柏としては大人しい樹形ですが、幹の横線と枝の配置のバランスが良く、落ち葉も美しい樹があります。鉢も良く合っていて、お互いの魅力を高め合っています。

かえで
たくさん素材を一つの鉢に植えて、樹の姿を演出しています。この盆栽は樹皮を剥き出しにしてから60年以上は経ち、自然林を彷彿とさせる一帯が醸し出されています。

真柏(しんぱく)・銘「昇天の龍」
第1回世界盆栽大会(1989年)の時にはポスターに採用した名木ですが、海外でもトップコンの賞状で知られた、日本の盆栽界を代表する重要な名木の一つです。

寒桜(かんざくら)
サクラは日本を代表する花木ですが、引き継いだ木の盆栽は意外に少ないです。この樹は樹皮が剥き出しのべんべん(むら)を被らせ、サクラの魅力を遺憾なく発揮しています。

黒松(くろまつ)
誰もが「盆栽」といふ言葉から連想する、堂々とした姿に気品と高級感が感じられる。万葉の神代歌によって、黒松らしい雄姿が強調され、大観の姿がイメージされます。

五葉松(ごようまつ)・銘「観和」
五葉松は日本の広い範囲に自生しており、盆栽としても大人気があります。この樹は自生地の樹の姿を忠実に再現し、長年の月経によって美しい姿にまとめられています。

【ポストカードデザイン】

